

# サケ・マスの稚魚を——ダム of 被害から守る

～ コロンビア川で研究， 開発中 ～

“Salmon Research at Ice Harbor Dam” から

河川水は水力発電や灌漑用水として、非常に重要であることは言うまでもない。しかしこのためにダムが造られ、さく河性魚類にとって容易に降河、そ上ができなくなってきた。

このことは、アメリカはおいても同じで、サケ・マス等の資源維持、増大に大きな問題を投じている。最近のアメリカ内務省から送られてきた情報によると、ダムの被害から守るための方法を現在研究、開発中であり、近い将来その方法が確立するだろうと述べている。

その方法というのは下記のようなものである。

最近の或るデータによると、若令魚は大抵のダムのタービンに入ると10%位は死んでしまうといわれる。そこで、米軍技術部と商水産局では、若令魚が安全にダムを通りぬけるか、回避するための方法を試験した。

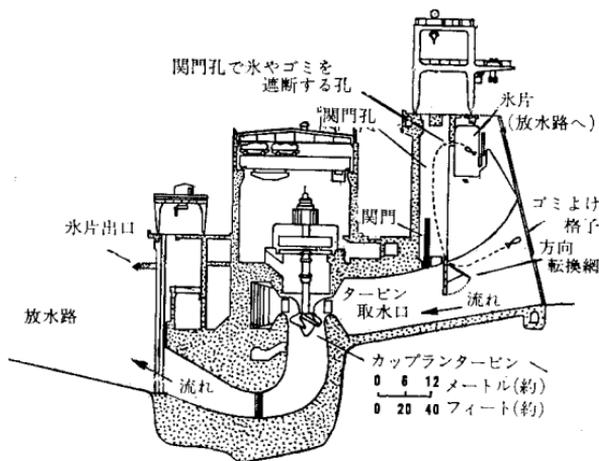
それはダムに開閉孔（或は開閉弁）をタービンの上流取水口に取り付け、そこにサケ・マスの若令魚やスチールヘッドが集まるようにしたものである。

この結果、タービンの入り口に入ったあとでも80%程度の魚が閘門孔で方向を転換できることがわかった。これを運転規模で1969年春にアイス・ハーバーダムで行ったところ、若年魚が安全な状態で通過することもわかった。

しかし、この方法とは反対に、或るダムに稚魚を集め、貯蔵タンクに入れて幾つかのダムを越えて輸送して放流してみてもは？ということである。これによれば、例えば、アイス・ハーバーダムで魚を集め、シヨンデーダムの下流に放流すれば、その間生き残りは100%になる筈である。

だが、ここで未解明な問題があ

(25ページへ続く)



上図はコロンビア川のダムの典型的なもので、稚魚は開門孔に入ると、方向転換網によって方向を変え、もどって、氷片やゴミはけ口を通って外に出る。

